

午後Ⅱ試験

全問共通

全問に共通して、“論述の対象とする構想、計画策定、システム開発などの概要”又は“論述の対象とする製品又はシステムの概要”が適切に記述されていないものが散見された。これらは、評価の対象となるので、矛盾が生じないように適切な記述を心掛けてほしい。

午後Ⅱ試験では、ITストラテジスト自身の経験と考えるに基づいて、設問の趣旨を踏まえて論述することが重要である。問題文及び設問の趣旨から外れた論述や具体性に乏しい論述は、評価が低くなってしまうので、注意してほしい。

問1

問1では、デジタルトランスフォーメーションを実現するための新サービスの企画について、具体的な論述を期待した。組織や地域社会の課題に対して、既存の事業を変革したり、新しいビジネスモデルを創出したりするなど、デジタルトランスフォーメーションを実現するための新サービスを取り上げている論述も見受けられ、題意はおおむね理解されているようであった。一方で、デジタル化による業務改善や、業務の一機能に対するデジタル化にとどまっている論述も見受けられた。デジタルトランスフォーメーションは、企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立することである。ITストラテジストは、事業やビジネスを変革するような取組と、それを実現する新サービスを企画できるように、国内外のデジタルトランスフォーメーションの先進事例などの知見を深めて、実践での経験を積んでほしい。

問2

問2では、個別システム化構想案に対するステークホルダの意見を調整し、事業戦略と整合の取れた個別システム化構想を策定する論述を期待した。多くの論述は、ステークホルダからの意見を基に、個別システム化構想で検討した内容を見直したり、意見調整のために工夫をしたりしている経験がうかがえた。一方で、ステークホルダからの単純な要望を聞いて構想としてまとめたといった論述や、意見の調整への対応として、単にRPA・SaaSの技術を活用したといった具体性のない論述にとどまっているものも見受けられた。ITストラテジストには、事業目標達成に寄与する、実現性のある個別システム化構想を策定できる能力が求められる。日頃から経営者の目線で説明することを心掛けてほしい。

問3

問3では、異業種メーカーとの協業による組込みシステムの製品企画戦略について、具体的な論述を期待した。異業種メーカーとの協業によって、既存製品を新たな製品として新市場へ投入する企画を立案した経験のある受験者には、論述しやすかったと思われる。一方で、新製品の概要が不明瞭な論述、異業種メーカーとの協業ではなく単なる外部調達に言及する論述、協業を検討した理由が不明瞭で内容が不足している論述も見受けられた。組込みシステムのITストラテジストは、既存製品のライフサイクルのステージを基にした、新市場への投入戦略について理解し、実践で深く分析する能力を養ってほしい。